

中野区教育委員会会議録

令和6年第7回臨時会

令和6年7月23日

中野区教育委員会

令和6年第7回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和6年7月23日(火)

開会 午後 6時30分

閉会 午後 7時25分

○場所

中野区役所7階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

○欠席委員

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○出席職員

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長

井元 章二

○書記

教育委員会係長 藤井 玉枝

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 岡本 淳之

○傍聴者数

0人

○議事日程

1 協議事項

(1) 令和7年度使用教科用図書の採択について（指導室）

○議事経過

午後 6 時 30 分開会

田代教育長

定足数に達しましたので、教育委員会第 7 回臨時会を開会いたします。

本会の会議録署名委員は、岡本委員にお願いいたします。

本日の議事は、議事日程のとおりです。

ここでお諮りをいたします。本日の協議事項「令和 7 年度使用教科書用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項の規定により非公開の取扱いとなっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項のただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

（以下、非公開）

（令和 6 年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開）

田代教育長

それでは、日程に入ります。

協議に入る前に、前回の臨時会から本日までに教育委員会及び教育委員宛てに要望書などが届いておりましたら、ご報告をお願いいたします。

指導室長

要望書等は届いておりません。

田代教育長

それでは、前回に引き続き、令和 7 年度使用教科用図書の採択についての協議を行います。協議の進行につきましては、前回と同様の方法により行いたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、教科種目ごとの協議に入りますが、本日は伊藤委員が欠席となりますので、各委員からご意見を伺い、採択候補の決定は次回以降の会議で行うこととしたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

それでは、そのように進めます。

それでは、まず、地理についての協議を行います。

まず、平本委員からご意見をお願いします。

平本委員

私は、地理については、地理的な見方・考え方を働かせて主体的・対話的な学びを深める内容になっているか。また、現代的な社会課題も取り上げた上で、資料や地図等を活用して、問題発見・解決の力を身につけることができる内容になっているかという観点を重視して見させていただきました。私が注目したのはB者とC者でございます。

まず、C者については、教科書を活用した学び方の部分が大変わかりやすく整理されている点がよいと思いました。巻頭では「地理的分野を学ぶ意義」と大きく見出しを立てて、地理的分野の学習の全体像や、歴史的分野で学ぶ事柄と、公民的分野で学ぶ事柄のつながりを、視覚的に、かつ文章でも示している点は、わかりやすく、すぐれていると感じました。また、デジタルコンテンツ、小学校の振り返りで地図のクイズなども工夫されておりましたし、統計資料も集約されておりましたので、生徒が興味・関心に応じて、活用できるような内容になっていると思いました。

また、B者のほうは、「地理の技」や「地理の窓」などの学習コラムが多く、資料やグラフを活用した上で、地理的な見方・考え方を生徒が働かせて学びを深めるような工夫が、随所になされている教科書だという点がよいと思いました。また、「持続可能な社会に向けて」という特設ページでは、六つのテーマを取り上げておまして、アフリカが抱える貧困等の問題、住み続けられる地域づくり、震災の経験を未来に生かすなど、現代的な社会課題を通じて地理的な見方や考え方を活用しながら、それを通じて問題発見・解決の力を養うことができるような内容がよく見えると思いましたので、私は、結論としてB者がよいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

次に、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

世界のあちこちで紛争、戦争が起こっています。中学生に世界について広く興味・関心を持ってもらいたい、そういう観点から教科書を拝見いたしました。

A者については、生徒の関心を引くような、授業の導入に使いやすい資料が多くあるという印象を持ちました。また、他教科との関連が示されたり、「もっと解説」「もっと知りたい」など、生徒が自然と読み進んで、発展的な内容を学んでいけるようなつくりになっていると感じました。これは少し気になった点なのですが、毎年のように大きな自然災害が起きる昨今で、自然災害について大きく取り扱ったということはよいと思うのですが、「自然は人間に恩恵を与える一方で、自然災害ももたらします」というのは、人間と自然が別々のもののよう感じました。

B者の教科書については、初めに学習課題として、この学習の方向性が示され、最後に確認、表現で定着を図るという構成は、中学生にとって基礎・基本を身につけるのにとてもよい構成であると思いました。また、「地理の窓」という、生徒の興味・関心を広げていくコラムも、とてもよいと感じました。

以上、バランスのとれた内容、見やすい紙面ということで、私はB者がよいと思います。

以上です。

田代教育長

続きまして、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

世界と日本の様々な地域を、様々な方面から、主体的・対話的にわかりやすく学びやすいものという点で見させていただきました。各者ともにわかりやすい工夫がされていたが、C者とB者について述べさせていただきます。

C者は、写真も大きく鮮明で、文字も見やすいと思いました。目次もわかりやすく、教科書を活用した学び方も、丁寧に説明されていました。また、考えを整理する方法も、図を用いて、わかりやすく説明されていました。右ページ下の「確認しよう」「説明しよう」で、学習の確認ができ、「学習を振り返ろう」では、学習の確認、また自分の考えをまとめ、さらに学習を深めるような内容となっていました。

B者に関しましては、「学習を始めるにあたって」からの見開きで始まり、目次も色づかいもわかりやすく、また教科の使い方を丁寧に説明していました。また、「地理にアプローチ」では、地図やグラフの使い方がわかりやすく説明され、学習の導入の部分が丁寧だと思いました。キャラクターを用いての問いや、右ページ下の「確認」「表現」では、主体的な学習につながるのではないかと思います。各写真も鮮やかで、大きく、見やすいと思いました。「学習のまとめ」と「表現」では、復習し、整理できるような内容となっていました。

デジタルコンテンツも、動画やクイズを通して、学びやすいのではないかと思います。

これらのことより、私もB者がよろしいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

地理の教科書は4者ありました。主体的・対話的で深い学びの対応については、A者は、各ページに「チェック」や「トライ」など、生徒が考える課題が設定しており、「みんなでチャレンジ」として話し合う活動を取り入れていました。また、「もっと知りたい」など、深く学べる工夫もありました。

B者は、各ページに「確認」「表現」などの課題があり、章末には「学習の学びと表現」として、探究課題が設定されていました。

C者は、「確認しよう」「説明しよう」など、課題があり、最初に学び方が丁寧に説明されていました。「地理Plus」や雨温図などの資料も充実していました。

D者は、各ページに「確認」「表現」などの課題があり、章末のまとめと振り返りの中には、「議論してみよう」というコーナーもあり、対話的な活動の工夫がありました。歴史や小学校とのつながりも示されていました。

編集上の工夫としては、4者全部が見開き2ページの設定で、学習目標も立てやすく、ユニバーサルデザイン、SDGsを意識した編集となっていました。写真も見やすく、各教科書会社の工夫を感じました。

ICTの活用としては、A者は多くのページに二次元コードがあり、導入動画や資料等があり、家庭学習もしやすいと思いました。C者は、「学習を振り返ろう」など、それぞれのページに二次元コードがあり、生徒が自習しやすい工夫があり、コンテンツが裏表紙にまとめられていて、学習動画やワークシートなど、関連するリンク先も丁寧に示されていました。

どの者も工夫を感じましたが、私は総合的に見てC者がよいのではないかと感じました。

他に、各委員から発言はございませんか。よろしいですか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見を伺い、意見を集約することといたします。

次に、歴史についての協議を行います。

まず、岡本委員からご意見をお願いします。

岡本委員

各者の教科書、本当に充実していました。「歴史を学ぶ」ではなくて、「歴史に学ぶ」ことができる教科書なのだなということを、感銘を受けながら拝見いたしました。たくさんの者に出していただいています。私はA、B、C、D、E者について、意見を述べたいと思います。

A者についてですが、章の扉で、この章で探究する問いというのが明示されていました。1節、2節で何を学んでいくかも書かれているので、見通しを持って学んでいけると思います。また、章の最後の「まとめの活動」も、学習の定着を図る、深めることが期待できると思います。取り扱っている内容も、大変バランスがよかったと思いました。

B者については、冒頭の歴史の「見方・考え方」と、「学習の進め方」で、教科書の記述について、「さまざまな『問い』を投げかけてみよう」とあるのが、まさに歴史をそのまま暗記することではないという見方・考え方として、大変よいと思いました。こちら、取り扱っている内容は非常にバランスがよかったと思います。

C者については、教科書の冒頭で、歴史の流れと時代区分について、中学生が興味を持って読めるように、大変工夫されていると思いました。1冊を通して「タイムトラベル」で歴史を見るというつくりになっていますが、中学生が自分ごととして捉えられるという気がいたしました。「技能をみがく」のコーナーでは、例えば複数の資料をもとに類推するなど、これも本当に大人が仕事する上でも必要な学びを中学生の段階で経験できると思いました。こちらの教科書も、内容は大変バランスよく取り扱われていると思います。

D者については「身近な歴史を調べよう」、一般に教科書に載っている大きな歴史とは文脈の異なる、身近な地域の小さな歴史に目を向けさせるというところが大変すてきなページだと思いました。大文字の歴史とともに一人ひとりに歴史がある、こういう気づきにつながればよいと思いました。資料を豊富にそろえてあるのですけれども、レイアウトもそれほどごちゃごちゃしていないなと思いました。また、地域からのアプローチとして六つの県に注目して、そこから歴史を見るというコーナーも、面白いと思いました。

E者については、大変平易にまとめられているという印象があります。章の扉で「どんな学習をするのかな」として、この単元で何を目指すのかが書かれていて、これも中学生は見通しを持ちやすいと思いました。「史跡見学に行こう」というコーナーがありまして、例えば、平城京の例が出ていたのですが、実際に平城京に行けるかどうかはわかりませんけれ

ども、身近な史跡に見学に行く際の参考になるページかなと思いました。

以上で、取り扱っている内容のバランスがよいこと、また、さらに充実した情報が載りつつも、中野の中学生にとって、読みやすく、学びやすいと感じたB者がよいと思いました。また、A者とC者も、とてもよいと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、村杉委員、お願いします。

村杉委員

世界の歴史を踏まえ、日本の歴史を深く理解することで、生徒たちがこれからますますグローバル化する国際社会で、広い視野から思考・判断ができ、協調できるよう、また生徒たちがわかりやすく学習ができることなどの観点から、見させていただきました。私は、B者、C者、D者について、述べさせていただきます。

C者は、巻頭の「よりよい社会を目指して」の見開きのページでSDGsにも触れ、目次も見やすく、続く歴史的分野の学習の全体像や歴史的な見方・考え方から、考えを整理する方法で、丁寧に学習の進め方が説明されていました。「タイムトラベル」でその時代の場面へ移り、さらに詳しく掘り下げられるような質問もあり、生徒たちの関心が高められるのではないかと思います。年表は、見開きのページの右側に縦に示され、わかりやすいと思いました。デジタルコンテンツも使用しやすいのではないかと思います。

また、D者は、やや文字が小さく、文章が多い印象でしたが、資料が豊富でわかりやすかったと思います。見開きの右下の「ステップアップ」や「歴史を考えよう」では、さらに生徒たちに考えさせるような記載になっており、学習が深まるのではないかと思います。B者は、写真も大きく、図とのバランスもよく、文字も読みやすいと思いました。巻頭の「私たちにつながる歴史」では、伝統行事や文化財、また現代の選挙の写真、メディアの多様化、科学・技術の発展まで、つながりを持たせていました。教科書の使い方でも、学習の流れが示され、見通しが立ちやすいのではないかと思います。目次も、カラーで分けられ、見やすく、また歴史的な見方・考え方も紹介され、自分たちの学習に役立てられるような解説がされていました。「身近な地域の歴史を調べよう」では、自分たちの地域と関連させ、学びが深まり、より地域のことも理解できるのではないかと思います。年表は、それぞれ左ページの中段にあり、こちらも見通しが立ちやすいのではないかと思います。「歴史を探ろう」では、グループでの話し合いの中から、対話的で深い学びができるのではないかと思います。

ました。「学習のまとめ」も、整理しやすく、理解が深まるのではないかと思います。デジタルコンテンツに関しては、学校からの意見でも、とても使いやすく、生徒の自主的な活動にも活用できるとの記載がありましたが、動画へのリンクなど、充実していると思いました。

以上、私も迷いましたが、B者がよろしいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

次に、平本委員、お願いいたします。

平本委員

歴史については、主体的・対話的な学びを深められるような内容になっているか。また、公正な文章で表現されているか。そして、国際的な広い視野に立った上で、歴史の見方・考え方を働かせながら、現在の課題についての問題発見・解決の力を身につけることができるような内容になっているかという観点で、各者を見させていただきました。大変数も多く、迷ったのですけれども、生徒がしっかり調べたことをまとめる力が身につくそうだなと思ったのは、C者とD者でした。

C者については、歴史の流れと時代区分、歴史の調べ方や学び方、発表の仕方について、かなりしっかりページ数を割いて説明している点が特徴的であると思いました。大変詳しく書かれているので、補助資料としても助けになると思いました。学習の振り返りやまとめについても大変丁寧に詳しく、「タイムトラベル」という用語を活用して、年代や、推移、比較を意識させるような工夫があったのですけれども、やや学習の進め方が、固定的になってしまうかなと思いました。かなりしっかり「こうやるんだよ」と説明がありましたので、このとおりにまとめることで終わってしまうかもしれないというのが、少し懸念された点です。

D者についても、冒頭で「学習の進め方」として、テーマを設定して、調査し、レポートをつくって発表しようという三つのステップを丁寧に細かく説明しておりました。調査のスキルやレポートの書き方、スライドのつくり方など、とても丁寧に、これをしっかりとやると、調べてレポートにまとめる力は大変身につくのではないかなと思ったのですけれども、問題発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを進めていくという観点ですと、このしっかりした教科書を使いながら、教える側の技量も必要になりそうだなと思いました。ただ、子どもたちは自主学習がとても進めやすい教科書ではあるなと思いました。

他方で、学び方の工夫を感じたのがA者とB者でございました。

A者については、各単元の右側に必ず年代の流れが示されておりまして、時期や推移を理解してリンクさせていくというのは、とてもわかりやすい工夫がされていたと思います。また、「まとめの活動」についても、ステップチャートを用いて、調査した内容を踏まえて、問いを解決するという流れを示しておりまして、学んだことの穴埋めだけにならないような工夫がなされているのではないかなと思いました。

B者については、歴史の見方・考え方と、学習の進め方の整理が一番わかりやすかったと思います。先ほど岡本委員もおっしゃっていましたが、「さまざまな『問い』を投げかけてみよう」と呼びかけて、問いには様々な種類があるということを意識させて、問いかけの仕方を考えてみるということを通して、自然にその時期や推移、比較、関連など、歴史的な見方・考え方を、主体的に自分で発見して学んでいくことができるような工夫があると思いました。

また「歴史の技」というコラムでは、地図を読み解く、図書館を活用するなど、学びを深める様々な視点や手法を与えている点がよいと思いましたし、各単元の左中央に年代が示されておりますので、学習課題と単元の確認事項が右下に整理されているというところも見ながら、見通しを持って生徒が学習を進めやすいと思いました。

最後に、「まとめと表現」のところでは、横軸で年代の流れ、推移を必ず意識させて、穴埋めの知識問題を交えながら、学んだことを文章で説明させたり、歴史の転換点や、その理由などを思考し、表現させる工夫がなされている点で、大変工夫された教科書であると思いましたので、私は結論としてB者がよいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

全体的に主体的・対話的で深い学びを実現できる教科書として、A者、B者、C者が、それぞれいい点があると思いました。

A者は、「チェック」「トライ」など、思考力や判断力を伸ばす課題が設定されていて、「もっと知りたい!」や「資料から発見!」など、学習を深められる課題も工夫されていました。

B者は、学習課題も各ページで整理されていて、見方・考え方についても丁寧な記載が見られました。「確認」「表現」など、思考力や判断力を伸ばす課題もありました。また、テー

マが独自で、「ざんぎり頭を叩いてみれば」とか「欲しがりません、勝つまでは」など、生徒が今日はどんな学びをするのか、興味や関心を高めるテーマ設定になっていました。

C者は、解説や資料をたくさん盛り込んであり、知識や技能の習得がしやすいと感じました。「確認しよう」「説明しよう」の問いかけが、思考力や判断力を伸ばす課題になっており、「アクティブ歴史」のコーナーは、生徒が主体的に取り組みやすい工夫がありました。

また、多くの者が2ページ1単元の構成になっていて、今日どこまで、何を学ぶのかがよくわかる構成になっていました。また、多くの者が、学ぶべき大切な語句は強調された文字になっていましたが、このほうが覚えるべき重要な内容が中学生にはよくわかると思いました。年表を右端や下段など、各者工夫して取り入れていました。歴史の教科書では、今の時代を勉強しているのか、常に考える必要があり、とてもよい工夫だと思いました。ICTの活用は、歴史教科書でも必要であり、歴史の動画は学習意欲を高めると思いました。その点で、二次元コードを効果的に活用している教科書は、生徒の自学自習に非常に効果があると思いました。

3者の中で、私はA者が中野区の中学生にはよいと思いました。理由は、中学生として覚えておく必要な語句や、その分量について、必要な語句が強調されている部分がわかりやすいと思いました。また、学習課題が最初にあり、最後にまとめがあり、学習しやすい教科書だと思いました。単元の初めの導入資料が扱いやすく、生徒が主体的に学習に取り組める教科書だと思いました。レポート作成やプレゼンの仕方なども工夫されており、単元として持続可能な社会の実現や日本のエネルギー歴史など、学んでほしい題材もありました。

以上のことから、総合的にA者がよいと思いました

他に、各委員から発言はございませんか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見を伺い、意見を集約することといたします。

次に、公民についての協議を行います。

まず、村杉委員からご意見をお願いします。

村杉委員

生徒たちが成長し、広い視野を持ち、グローバル化された社会を生きてゆく力をつけられるよう、主体的・対話的に学べるようになっていくか見させていただきました。各者それぞれわかりやすい内容となっていました。私は、A者、B者、C者について述べさせてい

たきます。

A者は、目次も見やすく、教科書の使い方と学び方も丁寧に書かれていました。「18歳へのステップ」で、選挙の流れについても、写真、図を使い、わかりやすく説明されていました。「もっと知りたい！」では、パレスチナ問題と中東和平などについて触れ、ページの下に「協調という観点から考えよう」「公正の観点から考えて提案しましょう」と、観点を变えて考えさせる点は、深い学びにつながるのではないかと思います。

C者は、教科書を活用した学び方、学習の全体像、現代社会の見方・考え方など、考えを整理する方法も、図にわかりやすい記載がありました。見開きの右下の「確認しよう」「説明しよう」も、学習の確認やまとめになり、学びやすいと思いました。

B者は、表紙の写真が美しく、様々な国の子どもたちや投票の写真があり、巻頭の見開きでも、「国際社会で活躍する」「伝統・文化・自然を受け継ぐ」「科学・技術が進歩する」「未来への思いをつなぐ」などのテーマで、それぞれ印象的な写真が掲載されていました。教科書の見方・使い方も丁寧に説明され、学習内容と見通しもわかりやすく、ノートづくりについても丁寧な記載がありました。「公民にアプローチ」では、メディア活用とプレゼンテーションの仕方が詳しく説明され、大変学びやすいと思いました。見開きの右下に、「確認」「表現」もあり、意見の交換など、深い学びに結びつくのではないかと思います。デジタルコンテンツも充実し、生徒の自主的な活用にも利用できるとの学校側からの意見もあり、使用しやすいのではないかと思います。

以上の点から、私はB者がわかりやすいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

次に、平本委員、お願いいたします。

平本委員

公民については、私は、地理や歴史とのつながりも意識させる上で工夫がされているか、また現代的な社会課題に対する問題発見・解決の力を養って、主体的・対話的で、深い学びを進めやすい内容になっているかという観点で、見させていただきました。各者ともに工夫や特徴がありましたので、私も迷ったのですが、B者、C者、D者について、コメントをさせていただきます。

まず、学習の進め方で工夫があるなと思ったのはD者でして、学習の初めで問いを追究して、まとめ、振り返るという流れで、学習の流れをシンプルに示しておりましたので、生

徒にとってわかりやすいのではないかなと思いました。また、特徴としては、世界の領土問題というところに切り込んで、その解決の事例をトピックという形で取り上げ、「領土問題があります」という説明にとどまらずに、領土問題をどのように解決できると思うかというのを考えさせている点で、発展的な学びの工夫があり、すぐれているなと思いました。子どもの権利条約についての説明やヤングケアラーについての言及もあり、現代的な社会課題も取り上げられておりましたので、バランスがよい教科書であるかなと思いました。

C者については、公民的分野の学習の全体像を示して、地理や歴史とのつながりを活用するということを冒頭でしっかり意識させる工夫がなされていたと思います。また、言葉選びが特徴的で工夫されていると思ったのですけれども、「対立と合意」「効率と公正」など、具体的な言葉を示して子どもたちに考えさせる。現代社会の見方・考え方というのはいくいうふうにできるのだよと示している点は、特徴的でよいのではないかなと思いました。また「アクティブ公民」では、話し合う学習課題を提示しておりまして、思考を深めて、ロールプレイングやディベートなどで、さらに学びを深めていくという流れが示されておりましたので、主体的・対話的な学びも進めやすいのではないかと思います。トピックの特徴としては、子どもの権利条約、また子どもの人権を守る制度のことについても、しっかりと紙面を割いて説明していたと思います。

また、私がよいと思ったのは、性の多様性のことだけではなくて、婚姻平等の議論として、夫婦別姓のことや同性婚の問題、またLGBTQ+についてなど、しっかり現代的な課題にも踏み込んでいる点は、とても特徴的で、すぐれていると思いました。

最後に、B者なのですけれども、B者は地理、歴史、そして公民へという社会学習の集大成を意識させるように、地理や歴史で学んだことを活用する視点というのをしっかり示しているのがよいなと思いました。公民で意識したい学び方、またメディアの活用やプレゼンテーションなど、発展的な学びを支えるような工夫も感じました。また、「公民の技」「THINK」などのコラムでは、対話的な学習課題を示しておりまして、主体的・対話的な学びも進めやすい構成であるなと思いました。

私が一番いいなと思ったのは、基本的人権の尊重についても、どのように基本的人権が尊重されているのかというのを学ぶ、教えるという視点だけではなくて、誰もがかけがえない存在として扱われるためには、どのような権利が必要でしょうかという課題設定をしております、他の発行者と比べても問いの立て方がすぐれているなと思いました。一番主体的・対話的な学びを進めやすいと思います。

また、性の多様性、子どもの権利条約、児童労働の問題、ヤングケアラーなどについてももしっかり取り扱っておりましたし、やはり問いの立て方が一番よいなと思いました。

「なぜ差別は生まれるのだろう」という問いを立てて、LGBTについてや、ハンセン病問題などについても取り上げており、また、AIの発達と人権など、新しい人権問題についても思考を深めるという内容もありましたので、私は学習の仕方の工夫が一番なされている教科書であるという理由で、B者がよいのではないかなと思いました。

以上です。

田代教育長

次に、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

中学生がスマートフォンを通して多くの時間接しているネットの情報では、フィルターバブル、エコーチェンバーの中で、自分が接したい情報ばかりがレコメンドされています。教育の重要な機能である「市民を育てる」ために全ての中学生が学ぶ公民という教科は、本当に大事なと感じながら拝見いたしました。A者、B者、C者、D者について、意見を述べます。

A者は、コラムを含めてとても情報量が多く充実していると感じました。さっき平本委員もおっしゃっていましたが、これからの社会をつくっていく市民を育てていくために大切な対立と合意について、しっかり書いてあるのがよいと思いました。各者、多かれ少なかれ共通して記述はあったのですけれども、A者の場合は、多数決も決め方の一つである。あとは、少数意見の尊重などについても書かれてあることは、とても大切だと思いました。また、構成として、各章の導入の活動で、一概に言えなそうな、人それぞれ意見が分かれそうな意見について話し合う活動が用意されていて、こちらも、自分の考えを相対化して、学びに向かう導入として、とてもよいと思いました。子どもの権利や、こども基本法、また共生社会など、中野区でも大切にしていることについても書かれていました。「18歳へのステップ」も、中学3年生に学んでほしいことが丁寧にまとめてあったと思います。

B者については、教科書の冒頭にメディア活用について解説してありました。こちらは、さっき申し上げたように、中学生がスマートフォンを通していろいろな情報に接している中で、公民の学習内容と現代社会をリンクさせていくために、重要なページだと思いました。こちらも、各章の導入に、自分の現時点での考えを整理して、その上でクラスメイトと対話して、他の人の考えを聞いていくというページがあるのは、とてもよいと思いました。

また、話し合いと決定の主な方法が、長所、短所とそれぞれまとめてあったり、またコラムで、「じゃんけんは公平か」。これも本当に、子どもの生活に即した話し合いのテーマがあるというのは、とてもいいと思いました。「なぜ差別は生まれるのだろう」というページでは、ただ差別はいけませんということではなくて、差別は現にある、誰もが差別をしてしまっている可能性があるという前提で、差別について解説されているのはとてもよいと思いました。「持続可能な社会に向けて」においては、外交の役割が重要であることを詳しく解説してありました。戦争の時代に生きる私たちにとって、まず戦争を起こさないために何をするか。そのための市民であると思はしますので、本当に重要な解説だと思いました。

C者についても、「対立と合意、効率と公正」を、教科書の最初のほうの「現代社会の見方・考え方」で取り上げていて、その上で本文でも詳しく解説されていて、とてもよいと思いました。また、「偏見や差別をなくすために」のページでは、中学3年生が書いた人権作文が取り上げられていました。これも同じ中学3年生にとっては刺激になるのではと思いました。子どもの人権については、各者の中で一番充実した記述があったと思います。戦争、紛争についての記述も充実していました。ロシア軍による攻撃を受けたウクライナ市街地の写真のキャプションとして、「写真の中の同世代の子どもたちはどんなことを考えているだろうか」という対話のテーマが示されていました。スマートフォンの向こう側の話で済ませてはいけない、自分ごととして考えるために必要なテーマだと思いました。

D者も、対立と合意について、これも中学生の学校生活に即して、例えば学級委員を選ぶとき、掃除当番を決めるときなど、子どもたちが自分ごととして考えられるコラムがあるのはよいと思いました。「明日に向かって」というコーナーでは「15歳は子ども？ それとも大人？」として、18歳成人に向けて、考えてほしい内容が書かれていると思いました。

以上、総合的に考えまして、私は中野区の中学生に学んでほしいと思ったのは、B者の教科書になります。でも、A者とC者もとてもよいと思いました。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

主体的・対話的で深い学びを実現しやすい教科書として、以下の4者がよいと思いました。A者は、各ページに「チェック」「トライ」など、思考力や判断力を伸ばす課題があり、スキルアップで資料の読み取りや調べ学習を行うことができるようになっていました。ま

た、「みんなでチャレンジ」で、対話的な学習ができるように工夫されていました。話し合いのテーマも掲載されていて、活動しやすい教科書だと思いました。さらに、章末に「探究課題を解決しよう」というコーナーもあり、学習したことをまとめることができやすいと思いました。

B 者は、各ページに「確認」「表現」など、思考力や判断力を伸ばす問いがあり、写真も資料が多く、生徒の興味や関心を高める工夫がされていました。

C 者は、最後に探究課題を設定し、今までの学習を統合してレポート作成や発表につなげられるように配慮されていて、問いと「確認しよう」がわかりやすい内容になっていると思いました。

D 者も、「確認」「表現」など、思考力や判断力を伸ばす課題があり、「チャレンジ公民」では、生徒の対話を促す課題を設定していました。

I C Tの活用については、A 者は多くのページに二次元コードがあり、二次元コードを見ると、地理や歴史の関連するページを見ることができるようになっており、総合的な理解が深まると感じました。C 者やD 者も、コンテンツは充実していると思いました。

編集上の工夫ですが、各者ともにユニバーサルデザインを意識した編集をしており、S D G sについても配慮していました。特にB 者の特設ページには、避難所運営に関する課題があり、生徒の興味や関心を引く身近な課題を取り上げているのは、とてもよいと思いました。

以上の点を総合的に判断して、生徒の話し合い活動が行いやすく、I C Tも活用しやすいことから、私はA 者を一番にしたいと思います。

ほかに、各委員から発言はございませんか。よろしいですか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見を伺い、意見を集約することといたします。

次に、地図についての協議を行います。

まず、平本委員、お願いします。

平本委員

私は、地図については、まず見た目のデザインのわかりやすさと、文字表記や配色の工夫や活用のしやすさ、また生徒が地図へ興味・関心を持ち、主体的に学ぶような工夫がなされているかという観点で、見させていただきました。

A 者については、情報量が多く、細かく丁寧に記載されているという印象でした。文字表

記や配色の点では、B者と比べてしまいますと、全体的に薄い色合いでして、好みはあると思いますが、視覚的にはB者のほうがわかりやすいかもしれないという印象を私は受けました。また、日本の自然災害に関する内容については、イラストや写真、ハザードマップなど、大変充実していたと思います。また、難民や亡命者のトピックなどの資料も掲載して紹介しておりましたので、現代的な課題について、生徒に興味・関心を持たせるような工夫がなされていると思いました。

他方で、B者については、見た目の点では、文字や配色が濃いめの色合いでありまして、視覚的にわかりやすいという印象を受けました。また、詳細な地図と、併せて広く見渡す地図を掲載しておりますので、全体を捉えやすくするような工夫もあると思いました。また、中野区についても掲載がありまして、中野区の子どもたちにとっては興味・関心を喚起するような教科書になっていると思います。さらに、「地図で考える持続可能な社会」という特集についても、デジタルコンテンツとも関連づけながら、教科横断的な学びを進めやすくする工夫がなされていると思いましたので、私は総合的に見て、B者がよいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

続きまして、岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

A者、B者、どちらも大変クオリティの高い地図帳だと思いましたが、私はB者の教科書のほうが、よりめりはりがきいた紙面となっていて、情報が目に入りやすいと感じました。また、B者の地図帳は、例えば30ページのアジア州の資料で、イラスト的にアジアの山並みがぶわーっと、高低とともに書かれていて、とてもわくわくしながら拝見しました。また、資料としても、B者は日本との結びつきとして、世界のその該当の地域と日本との直行便で結ばれる空港が示されていたり、また歴史的なつながりの意味でも、遣唐使や鑑真の航海路などが示されていたりして、社会科の中でもいろいろ関連が示されていると思いました。

したがって、私はB者がよいと思います。

田代教育長

次に、村杉委員、ご意見をお願いします。

村杉委員

生徒が興味を持ちやすいよう、わかりやすいレイアウトがされているか。色づかいなどが見やすいかなどについて、見させていただきました。

A者は、やや色づかいが薄い印象でしたが、このトーンが見やすいという考え方もあるかと思います。また、ページの上段に問いがあり、それぞれ主体的な学習につながるのではないかと思います。

B者は、色づかいが鮮やかで、わかりやすいレイアウトでした。また、地形図や、気候図、人口分布図などがバランスよく配置され、見やすく、学習しやすいのではないかと思います。多くのページに「地図で発見！」があり、主体的な学びとして活用ができるのではないかと思います。このような点から、私もB者がよろしいのではないかと思います。

以上です。

田代教育長

最後に、私の意見を申し上げます。

A者は、多くのページに「B e e' s e y e」というコーナーがあり、回答と解説も二次元コードで確認でき、生徒の自学自習にも効果があると思いました。世界地図に同緯度、同縮尺の日本があり、地域を比較して見る力が養え、環境問題や、資源・エネルギー問題、人口問題、貧困問題などを扱う特集ページもあり、生徒の興味や関心を高める工夫があると思いました。基本的な資料が多く、データも充実していて、調べ学習が効果的にできると思いました。色分けがわかりやすく、ユニバーサルデザインを意識しているつくりになっていると思いました。

B者は、「地図で発見！」というコーナーがあり、全ての回答と解説が二次元コードで確認できました。新しい課題をテーマにした地図が多く掲載されており、問題解決型の授業に役立ち、特に授業で活用できる主題図やデータも充実していて、調べ学習に最適であると感じました。また、二次元コードが各所に設置されていて、州や地方ごとにあって、活用しやすいと思いました。資料も大きくて見やすく、歴史的分野や公民的分野との関連もわかりやすく、他の教科でも活用しやすい地図帳だと思いました。ユニバーサルデザインを意識したつくりにもなっていました。

以上のことから総合的に判断して、私もB者がよいと思いました。

ほかに、各委員から発言はございませんか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見を伺い、意見を集約することといたします。

それでは、これから協議を行う保健体育についてでございますが、教育長就任前に大日本図書株式会社の数学の教科書の著作、編集に私が関わっておりましたため、教科書採択の公平性の観点から、大日本図書株式会社が発行する教科書がある種目の協議に関わることは適切でないと判断いたしました。

つきましては、保健体育については協議する場から退席したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

それでは、私はここで退席いたします。

退室後の教育委員会の会議の進行は教育長職務代理者の平本委員が引き続き会議を主宰いたします。

それでは、平本委員に会議の進行を引き継ぎいたします。よろしくお願いいたします。

(教育長 退室)

平本教育長職務代理

教育長職務代理者の平本です。

ただいま教育長が退室されましたので、職務代理者として会議の進行を行います。

それでは、保健体育について協議を行います。

まず、岡本委員、お願いします。

岡本委員

コロナ禍を経て健康教育の重要性が一層増したところですし、また薬物濫用など、子どもたちを取り巻く喫緊の課題もあります。そういう観点から主に拝見いたしました。特にA者とB者について、コメントを述べたいと思います。

A者は、見開き2ページで最初に学習課題、そして最後に「活用する」「広げる」という構成になっていて、指導される先生も、生徒たちも、安心して学びに向かうことができるのではと思いました。また、各章の最後にある巻末資料は、発展的な内容なのですが、アレルギーや、睡眠の大切さなど、これも切実に現代の中学生に知ってほしい内容だと思いました。性教育に関連しては、中学生の性についての関心ごとという資料が載っているのは、学ぶ中学生にとって、安心できるのではと思いました。また、ほとんどの中学生はスマートフォンを持っているということで、性情報への対処についても、他の発行者より多く取り扱っていたことはよかったと思います。

一方、体育について、こちらは生涯スポーツの観点から多様な楽しみ方が載っているのは、とてもよいと思いました。チャートで自身の運動やスポーツの楽しみ方を調べていけ

るというのも、とてもよいつくりだなと思いました。また、飲酒、喫煙、薬物濫用についても、スキルブックで適切な断り方について、自分で考えられるページがあるのもよいと思いました。

C者の教科書ですが、体育理論でまず「運動やスポーツは、必要性和楽しさから生まれた」。楽しさというのが前面に出ているのが、すごくよいと思いました。走るにしても、ただタイムをはかるというだけではなくて、ランニングのいろいろな楽しみ方というものがイラストでポジティブに示してあるのは、とてもよいと思いました。スポーツが苦手だったり、障害のある人でもゆるく楽しむことができる、ゆるスポーツを紹介しているのも、とてもよいと思いました。性への関心と性情報への対処については、社会的に見られる男性性や女性性についても客観的に記述されていたところが、とてもよいと思います。また、性についての固定的な考え方に気づこうと大きく取り扱っていたり、「人間の性はいくつある？」というコーナーも他の発行者にはなくて、これもぜひ中野の中学生に学んでほしいと思いました。

以上、総合的にC者の教科書が、私は中野の中学生に学んでほしい教科書だと思いました。

以上です。

平本教育長職務代理

次に、村杉委員、お願いいたします。

村杉委員

健康や医療に対する正しい情報を理解し、活用する力、ヘルスリテラシーを向上させるためにも、生徒たちへの健康教育は重要です。中でも、体の発達、生活習慣病、がんについて、またアルコールや薬物についてなどを比較し、わかりやすい解説がされているかという点について、見させていただきました。A者、B者、C者、D者ともに、わかりやすく解説され、それぞれの工夫がありましたが、私はA者、C者について、述べさせていただきます。

A者は、SDGsの記載の巻頭に続いて、教科書の使い方もわかりやすく説明されました。運動やスポーツの楽しみ方の多様性については、図で詳しく描かれ、生徒たちがこれから生涯で運動を楽しんでいくことを考えさせ、理解しやすいと思います。生殖機能の成熟についても詳しい記載がありました。生活習慣病、がんの予防、飲酒と薬物濫用については、見開きのページで簡潔に見やすくまとまっていました。がんについては、その治療法

や正しい情報の集め方について、詳しく説明されていました。薬物濫用については、新聞記事も掲載され、生徒たちの印象に残るのではないかと思います。

C者は、目次もわかりやすく、教科書の使い方も丁寧に記載されていました。運動やスポーツの多様な楽しみ方では、豊かなスポーツライフを実現するために、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむための記載がありました。また、体の発達、生殖機能の成熟は、図も大きく、女子、男子とページを分けて、詳しく、丁寧に記載されている点は、生徒たちが理解しやすいのではないかと思います。また、性的マイノリティの記載も、生徒たちにわかりやすく、想像しやすいように記載されていました。生活習慣病から、がんの予防についても、図と文章のバランスがよく、詳しく記載がされていました。また、喫煙、飲酒、薬物濫用と健康についても、写真やイラストを用いて、わかりやすく説明され、また誘われたときの対処の仕方も具体的で理解しやすい記載となっていました。デジタルコンテンツも、動画がわかりやすく、使用しやすいのではないかと思います。このような点から、私はC者がよいのではないかと思います。

以上です。

平本教育長職務代理

最後に、私の意見を申し上げます。

一生涯にわたって学びを続けていく上で、心と体の健康というのは大変重要なトピックであると思いますので、私は保健体育については、心と体の健康について、正しく学び、理解を深めることができるか。また、生涯にわたって運動する楽しさを主体的に学ぶことができるかという観点で見させていただきました。私のほうで迷ったのはA者とC者でございました。

A者については、SDGsとのつながりやテクノロジーや情報の活用など、現代的課題についても充実した内容になっておりましたし、運動についても多様な楽しみ方に目を向けさせるような工夫がございました。また、保健体育の学習方法については、子どもたちの問いから授業を始めるつくりになっておりまして、ディスカッション、実習や実験、ブレインストーミング、ロールプレイングなど、主体的・対話的な学びを進めやすい構成にする工夫があると思いました。また、心身の機能の発達については、4者の中でも最もリアルなイラストでしっかりと説明されておりましたので、正しく学ぶことができる教科書であると感じました。さらに、單元ごとに「活用する」「広げる」のコーナーがありまして、探究的な学びも進めやすいと思います。

次に、C者については、学習の進め方について、すっきりわかりやすく整理されている教科書であると思いました。運動については、ランニングを例に挙げて、様々な楽しみ方があることを、イラストを活用して丁寧に説明している点がとてもよいと思いました。また、性についての固定的な考え方について気づかせるような単元や、性的マイノリティについても、しっかり取り上げていたと思います。特によいと思ったのは、性的マイノリティの人々が抱える不安や悩みについても丁寧に言及し、本人の許可なく他人に教えることが苦痛になるのだということ。いわゆるアウティングをしてはいけないのだという人権上の配慮という観点についても、しっかりきちんと踏み込んでいる点がすぐれていると思いました。さらに、生活習慣病や、喫煙や、飲酒、薬物濫用などが、健康にいかなる悪影響を与えるのかなどについてもしっかりと説明されている点はよかったと思います。また、断り方や対処の仕方についても、他の発行者の場合はフレーズや方法だけを挙げているようなものがあるのに対して、C者については、はっきり意思を伝えるための対処にはこのような例がある、また、断る理由を伝える場合には、このような例があるなど、なぜ断るのかということを中心として、心理的な要因や人間関係や、社会的要因への対処について、理解を深めさせるということを丁寧に説明している点がとてもよいなと思いました。

ですので、私は総合的に考えてC者がよいのではないかと思います。

以上です。

ほかに、各委員から発言はございませんか。

それでは、次回以降の会議で伊藤委員のご意見をお伺いし、意見を集約することといたします。

それでは、保健体育の協議が終了しましたので、教育長は入室してください。

(教育長 入室)

平本教育長職務代理

教育長が着席しましたので、会議の進行を教育長へ引き継ぎいたします。

田代教育長

それでは、引き続き、私が会議の進行を行います。

それでは、本日の協議は、これまでにしたいと思います。

次回は、7月29日に書写から協議を行います。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第7回臨時会を閉じさせていただきます。ありがとうございます。

ざいました。

午後 7 時 25 分閉会